

ことうら議会だより

2025年2月1日発行 第83号



火災のない一年を願って

1月5日、消防団出初式が行われ、勢いよく放水して、
火災ゼロの一年になるよう願いました。
(カントリーエレベーター駐車場にて)



トピックス

- ・特集 P 2～3
混ぜればごみ、燃やせばCO₂、
分ければ資源
- ・臨時会、定例会 P 4～6
- ・一般質問 P 10～19



特集

混ぜればごみ、燃や

～ストップ！

地球温暖化の原因となるCO₂削減にむけて琴浦町は令和5年7・8月にごみ分別
また、令和6年3月『ことうらゼロカーボンチャレンジ宣言』（詳しくは琴浦町
になりました。

議会（教育民生常任委員会）は令和6年10月に鹿児島県大崎町を視察し、ごみ
まずは、身近な問題である家庭ごみの処理についてともに考えていきましょう。

“可燃ごみが少なくなっぴっくり！”

宮木・梅田・湯坂・国主・下伊勢東で実証実験

令和5年7・8月 ごみ分別収集の実証実験をした 梅田・谷本区長さんの感想

- ・「いま求められている課題なので、実証実験に参加しました。可燃ごみ（週2回）、生ごみ（週1回）、プラごみ（週2回）の3つに分別」
- ・「可燃ごみが少なくなっぴっくりした。7・8月の暑い時期だったので生ごみの臭いの問題が課題として残った」



生ごみ入れ（ポリバケツ）と軟プラごみ袋

実証実験終了後の反省会で出た

梅田集落のみなさんの感想

- ・「真夏にも関わらず、生ごみのバケツ内に虫は湧いていないように思われた」
- ・「生ごみはバケツの中の臭いが気になる。対策が必要」
- ・「お茶パックを乾燥させてから中身だけを捨てるのが面倒だった。可燃ごみが減った」
- ・「生ごみは夏場で大変だと思っていたが、やってみたら思っていたより出しやすかった。2日おきに生ごみを投入した」
- ・「軟プラごみは普段Aコープへ持って行っていたので近くなって便利が良い」
- ・「軟プラごみはペットボトルのように定期的に集落回収してほしい」 他



生ごみ2トン回収 5集落2ヶ月分



分別により、可燃ごみ（焼却分）が激減

せばCO₂、分ければ資源

地球温暖化～

収集の実証実験を5集落で実施。

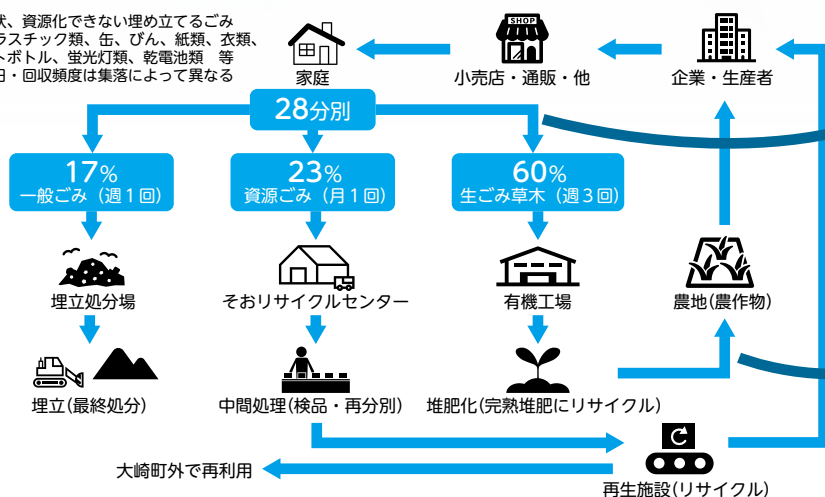
HP参照) を発表し、「温室効果ガス排出量の削減」など4項目を強力に進めること

の分別によるCO₂削減の取り組みの実態を学ぶことができました。

リサイクル率日本一、大崎町

～分別リサイクル率83%の実績～

- 一般ごみ：現状、資源化できない埋め立てるごみ
- 資源ごみ：プラスチック類、缶、びん、紙類、衣類、金属類、ペットボトル、蛍光灯類、乾電池類 等
- ※ごみの回収日・回収頻度は集落によって異なる



生ごみ収集の様子
(一般社団法人大崎町SDGs推進協議会HPより)



「環(かん)ちゃん」という
生ごみからできた肥料

琴浦町と大崎町の取組み

○大崎町……一般ごみの埋立処分場が限界を迎えたため、住民の協力による分別収集に取り組む。埋立量が年間4,000トンから700トンになり埋立地の延命と循環型社会を実現している。

○琴浦町……実証実験を経て、本年10月からプラごみ(硬軟プラ含)の分別収集実施予定。これにより、可燃ごみの削減が可能となり、CO₂排出量削減、中部ふるさと広域連合への町負担金の減少などが期待できる。

○まとめ……450回の住民説明会を開催した大崎町のように、町による住民への丁寧な説明が成果を上げるカギとなる。



ことうらゼロカーボンチャレンジ宣言

10月・11月
臨時会

12月
定例会

働きやすさと 寄付金やふる

このたびの臨時会、定例会では働きやすさと産業振興に重点をおいた
10月23日開催の臨時会では、町内事業所から寄せられた寄付金を活
調設備改修工事費の増額に伴う変更契約等を可決した。

11月26日開催の臨時会では、町内閉鎖企業離職者の早期再就職支援
12月5日からの定例会では、一般会計補正予算（第7号）の他、特
正予算など8議案を可決した。

10月臨時会（10月23日）

提案された3議案について全会一致で承認・可決

議案第118号 令和6年度琴浦町一般会計補正予算（第5号）

小中学校教育振興費 補正額 188万円

町内事業所からの寄付金を財源に、小中学校の備品を整備して教育環境の向上を図る。

議案第119号 建設工事請負契約の変更について

〔生涯学習センター空調設備改修その他工事〕

増額 1,938万円

改修の際、空調器に冷温水を供給する配管の劣化が判明
したため、配管の更新費を追加するための増額変更契約。



地下空調設備

11月臨時会（11月26日）

全会一致で可決

議案第120号 令和6年度琴浦町一般会計補正予算（第6号）

早期再就職支援助成 補正額 550万円

離職した町内在住者の早期再就職及び安定就職を図るた
め、正規雇用労働者として雇用した町内事業者に対して助
成金を支給。

（対象労働者一人当たり10万円）



令和7年3月末で閉鎖する町内企業

産業振興に重点 さと納税を活用

補正予算が提案された。

用した学校備品の購入費補正予算について、また、生涯学習センター空

のための補正予算について可決した。

別会計補正予算など11議案と、追加議案として、人事院勧告に伴う補

12月定例会（12月5日～12月17日）

提案された11議案について全会一致で可決

議案第123号 令和6年度琴浦町一般会計補正予算（第7号）

可決された主な補正予算

- | | |
|---|---------|
| 1. 自走式草刈機購入助成事業 | 1,200万円 |
| 農家がより効率的で安定した経営を維持することを目的に、
自走式草刈機を導入または更新する経費の一部を助成。
財源はふるさと納税を活用。 | |
| 2. プラスチックの分別回収事業 | 880万円 |
| 令和7年10月から開始するプラスチックの分別回収に向け、
指定袋の作成、分別方法の周知のためのチラシ作成などを行う。 | |
| 3. 和子牛緊急支援事業 | 300万円 |
| 発育の良い和牛を生産し、和牛せり市場に上場した場合に
奨励金を支給。 | |
| 4. 水産振興対策事業 | 150万円 |
| 漁業経営の改善を図る取組み支援するため、
漁船用機器の購入経費を一部助成。 | |
| 5. 学校給食費の助成拡大 | 101万円 |
| 給食費増額分を町が負担し、保護者の経済
的負担を軽減する。 | |
| 6. 果樹カメムシ類緊急防除支援事業 | 90万円 |
| 大量発生した果樹カメムシ類の追加防除に
かかる経費を助成。 | |



カメムシの被害を受けた梨

請願・陳情

番号	件 名	提 出 者	付託 委員会	委員会 の意見	本会議 採決結果
6年 請願 第2号	訪問介護費の引き下げ撤回と、介護報酬引き上げの再改定を早急に行うことを求める 請願書	鳥取県社会保障推進協議会 会長 藤田安一	教育民生	採択	採択
6年 陳情 第5号	地方自治法改正案に反対する意見書の提出 について（陳情）	倉吉市 足羽 佑太	総務産業	不採択	不採択
6年 陳情 第9号	「持続可能な学校の実現をめざす」実効性 ある学校の働き方改革、長時間労働是正を 求める意見書採択の陳情について	鳥取県高等学校教職員組合 中部支部 支部長 磯江英樹 鳥取県教職員組合中部支部 支部長 山根義孝	教育民生	採択	採択
6年 陳情 第10号	臓器移植に関わる不正取引、非人道性が疑 われる国への渡航移植等を防止するための 法整備等を求める意見書提出の陳情	一般社団法人 中国における臓器移植を考 える会 代表 丸山治章	総務産業	不採択	不採択

「琴浦町議会報告会・意見交換会」を開催

11月26日に上郷地区公民館にて議会報告会・意見交換会を開催した。
今回は、地域の課題や上郷地区からの要望事項を聞き取り、意見交換を実施した。

○議会からの報告

- ・議会改革の推進（議会の見える化・住民参画・議員定数等）について、進捗状況を報告。

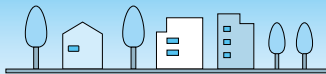
○意見交換（出席者の意見）

- ・農地の維持管理ができなくなり、耕作放棄地が増えている。
- ・近年、鳥獣被害に悩まされている。特にイノシシ被害の影響が出ている。
- ・林道作業道の維持管理が出来なくなり検討をお願いしたい。
- ・防災対策として、河川の堆積土砂の除去をお願いしたい。
- ・議員は、積極的に地域へ足を運んでほしい。
- ・議会の一般質問が中途半端に終わっている場合があり、もっと工夫してほしい。

※一般質問での議員の持ち時間は30分



意見交換会の様子



委員会の報告



総務産業常任委員会

委員長 小椋 憲浩

12月12日に委員会を開催し、各課からの報告事項の説明を受け審議を行った。

委員会に付託された6年陳情第5号（継続審査）「地方自治法改正案に反対する意見書の提出について（陳情）」を審査し不採択。6年陳情第10号「臓器移植に関わる不正取引、非人道性が疑われる国への渡航移植等を防止するための法整備等を求める意見書の提出の陳情」を審査し不採択とした。

委員会終了後はまなびタウン改装工事の執行状況と、浦安駅の撤去工事の進捗状況などそれぞれ視察を行った。また、報告のあった東伯総合公園サッカー場の防球ネットの追加工事の確認も行った。

《報告事項・質疑応答》

〈くらし関係〉

- Q** 公共交通の自慢できる点はないか。
- A** AIデマンドシステムの検討も進めたが利便性に欠ける可能性があり見送った。スクールバスの混乗を活用した利便性が図られる方法を検討する。
- Q** タクシー免許を持たない人でも代行できる組織作りを急いでは。
- A** 町社会福祉協議会や町以外の方などが事業主体となって、交通弱者の人を自家用車で運ぶところまで進めなくてはと考える。

〈事業関係〉

- Q** 国道街路灯の撤去は支柱を撤去して、後から基礎部分を別工事で撤去するのか。
- A** 国との協議で、支柱と基礎を同時に撤去するとなると時間が相当かかってしまうので、別々の工事の方が国道を利用される方に対しては負担にならない。
- Q** 町道のセンターラインの引いてある割合は20%との事だが、綺麗によくわかる様に引いてある割合は。
- A** 調査する。



まなびタウン視察



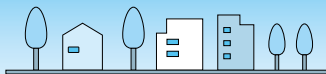
浦安駅視察



サッカー場視察

委員長の感想

12月の総務産業常任委員会では、委員会としての要望事項を取りまとめ執行部に提案してはどうかとの意見が出されました。県議会では会派があり要望書の提出は度々提出できますが、町議会ではあまりなじみが無いのが現状です。住民の要望書とは違い委員会で集められた要望を検討・集約し他の委員会分と合わせ全体で協議し議会が執行部へ提出するものです。町議会でも町民の声をより多く受け止め、より良い町政を目指す動きを行ってまいります。



委員会の報告



教育民生常任委員会

委員長 井木 裕

12月13日に委員会を開催し、各課からの報告事項の説明を受け審議を行った。

委員会に付託された6年請願第2号「訪問介護費の引き下げ撤回と、介護報酬引き上げの再改定を早急に行うことを求める請願書」を全会一致で採択とした。また、6年陳情第9号「『持続可能な学校の実現をめざす』実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正を求める意見書採択の陳情について」は全会一致で採択とした。

《報告事項・質疑応答》

〈プラスチック分別回収について〉

- Q** プラスチック分別回収用ごみ袋を海外製のものから国内産へ変更するうえで、障がい者施設へのごみ袋作成の依頼はこれまでどおり行われるか。
- A** これまでどおり変わりなく依頼する。
- Q** 軟質プラスチックの分別回収業務は町内福祉施設に委託しているが、一括回収になればこの業務委託はなくなるか。
- A** 委託はなくなる見込みである。

〈こども園・保育園入園申請について〉

- Q** 入園申請受付期間が10月～11月となっているが、年度末まで預け先が決まらない保護者はどうすればよいのか。
- A** 入園が確定していない場合でも、申請を受け付けている。
- Q** 入園者数の増減に合わせて、園の定数の見直しを行わなければならないのでは。
- A** 状況に応じて対応している。

委員長の感想

教育民生常任委員会では、10月10日～11日の2日間、鹿児島県内にあるリサイクルの先進地大崎町と下水汚泥の堆肥化に取り組む鹿児島市を視察しました。

資源循環型社会を目指す取り組みを先進的に行っている自治体の視察を通して、リサイクル活動などを積極的に進める場合には、住民・企業・行政の3者の協力が不可欠であることを再認識しました。

リサイクル率日本一を15回達成している大崎町では、ごみの分別開始前に行政が行った住民向けの説明会は、約450回にもものぼります。リサイクルの取り組みを浸透させるためには、このような住民との丁寧なコミュニケーションを重ねることが大変重要であると感じました。

12月の委員会では、琴浦町で令和7年10月から開始されるプラスチックの分別回収について、業務関連や環境関連など多くの質問が出されました。視察で学んだことが生きてきていると実感しました。

終わりにになりますが、今回の特集では大崎町のリサイクルの取り組みを紹介しております。



そおりサイクルセンター（大崎町）

～行政視察研修報告～

琴浦町議会運営委員会・議会広報常任委員会・議会改革推進特別委員会

1 期 日

令和6年10月29日～31日

2 内 容

- 1日目 ・東京都東村山市議会議員 佐藤真和氏 「議会改革」
・自治日報記者 高橋一之氏 「議会改革最新トレンド」
- 2日目 ・埼玉県寄居町議会 「議会改革」「議会の見える化」
- 3日目 ・神奈川県開成町議会 「議会改革」「議会の見える化」



開成町

3 考 察（報告書抜粋）

寄居町議会は、議会だよりの紙面により多くの町民に登場してもらうことで、議会への関心を高めています。

また、政策サイクルを意識した編集を心がけ、広報紙の中に動画と議事録のQRコードを設けることで、紙面の有効利用と共に議員・議会の動きを分かり易くしています。

開成町議会での広報紙のタブロイド判化の革新性は読みやすさと話題性に富み、それに伴って議会映像のライブ配信と録画配信を行っています。

ライブ配信は速報性に優れ、見たい時にいつでも見られるという随時制が保障されますが、本町に導入する場合、議会独自のwebサイトの制作、編集制作力が重要になってきます。

両町とも、日常の町民との意見交換会や決算議会などから、議会がワンチームとして「要望書」を執行部に提出しており、この点は本町議会でも大いに参考にし、取り組まなければならないと感じました。

総務産業常任委員会

1 期 日

令和6年9月30日～10月1日

2 内 容

- 1日目 新潟県三条市議会 「空き家対策」
- 2日目 福島県西会津町議会 「行政DX」「移住者支援」
「廃校利用」



西会津町

3 考 察（報告書抜粋）

三条市は「空き家プロジェクト」による空き家対策を実施しています。プロジェクトは、民間人の登
一用により、行政の枠にとらわれない自由な発想でイベントの開催やSNSによる情報発信を行っています。問題に対する理解や関心を喚起する取組が必要だと感じました。

西会津町は住民の半数以上が高齢者という自治体で、職員がしっかり先を見据え、町で実施する事業等を決めています。

同様に、DXの推進は担当者が必要性を認識・納得した上で導入しており、本町も実態に則してシステム導入を判断すべきだと感じました。

ここが聞きたい

一般質問 Q&A

一般質問とは、議員が、町長・教育長・農業委員会会長・選挙管理委員会委員長・監査委員などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来に対する方針などについて問うもの。

	質問議員	質問事項	掲載ページ
12月9日	通告1番 おぐら のりひろ 小椋 憲浩	1. 「東伯中央地区広域営農団地農道整備事業」の全線再開発について 2. 交通事情の整理について	11
	通告2番 たなか はじめ 田中 肇	1. 住民サービスの向上について	12
	通告3番 さわだ とよあき 澤田 豊秋	1. 会計年度任用職員制度の見直しについて	13
	通告4番 かわもと よしたか 川本 善孝	1. 訪問介護事業所への支援について 2. 生ゴミ処理の家庭支援策について	14
	通告5番 たにだ じゅんこ 谷田 順子	1. 健康寿命延伸に向け、更なる取り組みを行う考えはないか	15
12月10日	通告6番 いぎ ゆたか 井木 裕	1. 不使用となっている町所有建物の今後について 2. カウベルホールについて 3. 「琴浦会」西日本地区交流会について 4. まなびタウン地下駐車場スプリングラーについて	16
	通告7番 てしま まさみ 手嶋 正巳	1. 自伐型林業について 2. コーポラスことうらの現状と今後について	17
	通告8番 おしもと まさゆき 押本 昌幸	1. ゼロ・カーボン宣言と人工芝 2. 国道9号線沿線のクルマのディーラー（特約店・正規販売店）等の相次ぐ撤退をどうとらえる 3. 令和5年度琴浦町「プライマリーバランス」の劣悪化	—
	通告9番 くわもと はじめ 桑本 始	1. 「身寄りのない高齢者」の身元保証、無縁遺体指針整備等の多岐にわたるサービスについて 2. 犯罪被害者支援（児童・生徒）の教育支援について	18
	通告10番 おぐら まさかず 小椋 正和	1. 公共施設駐車場の区画線整備について 2. 町道センターライン整備について 3. 小・中学校の諸問題対策について	19

※青字は、本誌では省略



事項一覧



通告書



- 1 広域営農団地農道整備の全線再開発の考えは
- 2 交通事情の整理
・中山間地域道路などにおける防雪棚設置について



- 1 サイクリングロードの活用など中部全域として対応したい
- 2 冬季の交通安全対策として有効な施設として認識している
福本町長

質疑応答時間 (13回 (質問) 25分 + (答弁) 21分) (トータル) 46分



小椋 憲浩 議員

東伯中部地区広域営農団地農道整備事業の全線再開発の考えは



中止になった経緯と再開発への取り組みは。



当初の計画より採算の見込みがない事で、平成24年に事業中止となった。農道事業としては事業費、負担金をそれぞれ市町に返還し清算した後も、琴浦町は諦めたわけではなく、基幹農道という位置づけで県や国に要望としてお願いをしている。



全線開通による防災や森林環境への対応、新たな産業開発、観光面での人口流入効果への期待は。



活用の一つとしてサイクリングロードとして団体からの要望もいただいており、倉吉・三朝間の計画も含め中部全域で対応したいと思っている。



今後の取り組みと全線開通に向けて進める覚悟はあるか。



道路は血管と同じだと思っているので防災面も含めて農道整備とは違った計画を組んで行かないと容易ではない。少なくとも上中村・尾張間が繋がるように毎年同じ内容であっても国や県に要望として提案はお願いしていく。

交通事情の整理



公共交通車両の整備更新計画について、事業開始から6年経過し計画的に車両を更新するようになっているが、更新されていないのはなぜか。



バスは一般の利用客と児童・学生が混乗で運行している状況だが、車体は古い物が多い事は承知しているので、常に安全な状態で運行出来るよう安全には特に気を付けている。
令和7年度に1台処分。



中山間地域道路に防雪棚を設置することで、冬季のホワイトアウト状態の発生を抑制し、通勤車、公共バス、介護車、集乳車などの被害を軽減できないか。



冬季の交通安全対策として有効な施設である事は認識している。棚の設置の仕方により、吹きためるのか、吹き飛ばすのか風の具合で検討が必要。さらにはかなりの経費が必要であるのと、用地確保も大変難しくなって琴浦町では難しいと思っている。



防雪棚 (大山町)



田中 肇 議員



- 1 住民サービスで求められる職員のマナーは
- 2 公共施設の予約システムの改善を



- 1 来訪者に対する職員の笑顔と挨拶
河原教育長
- 2 当日の利用方法について今後協議していきたい
福本町長

質疑応答時間 (14回 (質問) 30分 + (答弁) 32分) (トータル) 62分

住民サービスで求められる職員のマナー

問 来庁者に対する職員のマナーは

市町村は直接住民の方と関わる身近な機関であり、住民サービスの向上は行政における最優先課題である。

来庁者を迎える時、職員に求める業務上必要なマナーとは何か。

答 まず接客、挨拶が基本 福本町長

窓口対応、まず接客が基本。

役所に限らず、企業でも同じことが言えるが、挨拶が基本だと思っている。

答 職員の笑顔と挨拶 河原教育長

来訪者に対して職員が笑顔と挨拶で温かく迎えることが大切だと思い、自ら実践し職員の意識づくりに取り組んでいる。

問 研修講師の評価は「挨拶がまだまだ、この1年でどのように改善したのか」

仕事の説明等はできているが「来た人への挨拶がまだまだ」という研修講師の評価を、この1年でどのように改善したのか。

答 個人差があり、少し危惧している 福本町長

基礎的な接遇マニュアルは職員に周知すべきと思っている。

個人差があり、接客の類は個々で違ってくるので評価については少し危惧している。

公共施設の予約システム改善

問 公共施設の予約システム導入の効果と改善点は

公共施設の予約システム導入による対費用効果と導入後の改善点について伺う。

答 人件費等に換算すると550万円の効果 福本町長

窓口対応時間が削減でき、実績を基に人件費等に換算すると550万円の効果がある。

答 施設利用者の利便性が向上した 河原教育長

利用者がどこにいても予約状況を確認して事業やイベントの申請が可能になった。またキャッシュレス決済で支払いも出来て利便性が向上した。

問 利用の申込期限3日前は見直しすべきでは

本町の施設の利用申込は3日前としているが、これは社会体育施設が対象で、他の公共施設は当日申込が可能であり、同じ行政の中で矛盾する。

また、県下では申込期限に定めのある市町村は少なく、多くは当日申込が可能である。

このため、3日前の申込期限を見直すべきでは。

答 当日の利用方法について今後協議する 福本町長

町民から当日利用できないかという声は聞いているので、課題が上がっている中、町民が気持ちよく使えるような体制を、教育委員会を含め、協議していく。

問

1 町職員の実態は
2 不安定就労の常態化は将来の生活に大きく影響するが

答

1 正職219名、会計年度任用251名
2 条件面での改善は続けている
福本町長



澤田 豊秋 議員

質疑応答時間 (11回 (質問) 30分 + (答弁) 27分) 57分 (トータル)

会計年度任用職員制度の見直し

問

町職員の実態は

職員定数条例に基づく正職員の現状と、会計年度任用職員の実態はどうなっているのか。

答

正職219名、会計年度251名

正規職員の定数は230名であるが、現状は219名。会計年度任用職員は、定数はないが今年の12月1日現在で251名。

問

実態、経験を考慮に正職員へ移行すべきでは

恒常的な職務については、「任期の定めのない常勤職員」の配置が基本であると思うが、勤務実態、経験を考慮して正職員へ移行すべきではないか。

答

移行できない

正職員は、現在様々な試験を経ており、経験年数等に応じて常勤職員への移行はできない。

問

昇給4号にならないか

会計年度任用職員の昇給は現在1号級となっているが、制度が出来た時の考え方を踏まえ4号にならないのか。

答

中部4町で1号と結論

東部・西部は4号、3号だが、中部は4町で協議し、1号という結論を出している。

問

不安定就労の常態化は将来生活に大きく影響

同一労働同一賃金と言いながら、正規、非正規公務員の格差解消になっていない状況を考えると、不安定就労を常態化することは、結婚、子育てをはじめ将来の老後の生活等にも大きく影響してくるのではないか。

答

条件面での改善は続けている

勤勉手当も開始され、給与の制度面での差は縮まってきている。そもそも会計年度任用は、単年度任用という法制度の中で、条件面での改善は続けている。

問

今後の労働環境整備等含めた町づくりは

このような状況を踏まえて、今後の琴浦町の労働環境の整備等を含めた町づくりをどのように考えているのか。

答

町の取組が様々なところで波及

地方公務員法の趣旨に基づき、町職員の労働環境改善を行っており、こうしたことが町内の企業、様々なところでの職場の労働環境づくりに波及していくものと考えている。

問

検討組織を立ち上げては

「産官学金労言」の関係者に協力を得て、検討組織を立ち上げて検討してはどうか。

答

国、県の動向を見て

もう少し国、県の動向を見てから考えたい。



川本 善孝 議員



訪問介護事業所が全国的に激減しているが、支援策は



県独自の支援制度の活用を検討する
福本町長

質疑応答時間 (9回 (質問) 27分 + (答弁) 20分) (トータル) 47分

訪問介護事業所への支援

問 訪問介護事業所からは、具体的な支援の要望があるが

本年4月から訪問介護報酬が2～3%減額され、全国的に訪問介護事業所が激減。本町でも5事業所が閉鎖し、「保険あって介護なし」の状況になってきている。事業所からはガソリン代、使い捨て手袋、アルコール消毒液等の支援の要望が出ている。

答 県独自の支援制度の活用を検討する

運営費が赤字になっている部分に対し、県と町が支援する制度があり、活用を検討する。

問 シルバー人材センターの『生活援助サービス』への支援内容は

シルバー人材センターは、7人のスタッフで25名の要支援者の買い物代行等の生活支援サービスをしている。「断っている人もあり、需要は増えている」と聞いたが。

答 訪問介護事業所が少なくなってきたので、町が委託して実施

要支援等軽度な人の生活援助サービスで、介護保険特別会計から委託費としてシルバー人材センターに出している事業。1時間1回1,527円で、自己負担150円、町負担1,377円である。

生ゴミの家庭処理機への助成

問 家庭のコンポストや生ゴミ乾燥機等購入に対し助成する考えは

COP29（国連気候変動枠組条約）によると、本年は最も暑い年になるのは確実とのこと。CO₂削減は待ったなしだ。CO₂削減のためには、水分が8割といわれる生ゴミの焼却処分を減らすことが大事だと考えるが。

答 7年度からのプラスチック分別収集で機運を盛り上げて、意識を高めてもらうようにしたい

分別収集の実証実験を行った。5集落76世帯220人に参加いただいた。家畜ふん尿30tに対し生ゴミ2tを入れて、堆肥を完成させた。今後は、堆肥施設、破砕機、重量計、成分検査等も必要になってくる。

問 生ゴミ乾燥機で年間96kg削減の実証があるが

生ゴミ乾燥機を使っているAさんの記録によると、1ヶ月で8kg削減、年間96kg削減になる。

答 燃やせば良いという考えは、これから考えていかなければならない

町の畜産業をベースに先進地の取り組みを参考に検討していきたい。観光面でも未処理のまま農地に出していくのは避けたい。家庭用の生ゴミとブレンドしながら出していく方法は良いことだと思っている。広域連合の炉も傷んできたし、焼却灰の捨て場もいっぱいになり、燃やすこともかなり難しくなっている。



健康寿命の延伸のため、健康ポイントラリー事業を復活しないか



琴浦健康計画の達成状況を見ながら検討する

福本町長



谷田 順子 議員

質疑応答時間 (9回 (質問) 26分 + (答弁) 17分) (トータル) 43分

健康寿命の延伸にどう取り組むか

問 令和23年には肩車式で高齢者を支援する予測だが

町の人口構成、高齢化率、介護保険給付率の推移から見てくる将来像は、出産可能年齢といわれる20歳代から40歳代の女性の人口は減少を続け、少子化の改善は難しい状況にある。

また、15歳から64歳の生産年齢人口も減少を続け、令和3年時点で4人で3人の高齢者を支えていたものが、令和23年には一人で一人の高齢者を支える肩車式になると予測されている。

働き盛り世代の負担軽減のためにも、健康寿命延伸に向けた更なる取り組みが必要だと考えるが、町長の考えは。

答 健康ことうら計画に基づき見直し・点検等を行う

前期ことうら計画における健康寿命1歳延伸の目標は男性1.1歳で達成されているが、女性は0.5歳で未達成だが、計画に示している良い食習慣の定着や運動習慣など8項目の取り組みを行っている。

健康ポイントラリー事業の復活をされないか

問 負担軽減対策は待ったなし

一人で一人の高齢者を支える肩車に、医療や介護の負担が大きいのしかかり、若者世代の負担がますます増大することは火を見るより明らかで、負担軽減のための対策は待ったなしと考える。

健康に無関心な層への取り組みとして、健康ポイント制度を実施している自治体もあり、ポイント制度を実施することで住民が楽しみながら健康行動を行い、健康増進に効果を上げているという事例であるが、琴浦町でも以前実施していた「健康ポイントラリー事業」を復活させないか。

答 とっとり健康ポイント事業をPRしている

県が令和元年から「とっとり健康ポイント事業」を開始し、町の事業と重なっており、今は県の事業の活用をPRしている。

参加することで得るものがあるような取り組みが長続きすると思っている。いい方向が出れば提案していきたい。

アプリを活用した健康ポイント制度「てくポ」



「東京都八王子市の健康ポイント制度」
出典：自治体ワークスvol.29



井木 裕 議員



1 不使用の町所有建物の今後は
2 使用禁止になっているカウベルホールでイベントを行ったのはなぜか



1 難しいと判断されたものは解体
2 今後、本当に運営できるのかを確かめるため
福本町長

質疑応答時間 (14回 (質問) 30分 + (答弁) 31分) (トータル) 61分

不使用になっている町所有建物の今後

問 町所有建物はサウンディング調査が進められているが、どのような方針で町民ニーズに答えていくのか伺う。

答 基本は生かす方向で検討し、難しいと判断されたものは解体していく。町民や民間事業者で使用方法や事業化を検討する。

問 民間との協議の間にも老朽化は進み価値も下がる。旧逢束保育園前の道路は都市計画で一方通行を解消する整備が必要では。

答 旧保育園は今年度更地にする予定。道路事情については考えていない。



旧逢束保育園

カウベルホール

問 再度利用できるようにしてほしいという声が多数ある。ホールのサウンディング調査も改修費用が半分以下になるような設計の調査が良いと感じている。調査の進捗を伺うとともに、使用禁止になっているはずのホールでなぜ11月3日のイベントが実施されたのか伺う。

答 施設は今の建築基準法に当てはめて直さなくてははいけない。個人的には物価高騰の折、10億以上かかると思っている。11月3日のイベントは、現在事業に手を挙げている1社が、本当に運営が可能なのかを確かめるための再調査。

琴浦会西日本地区交流会

問 町のトップからの願いは重みがある。なぜ欠席したのか。

答 ポート赤碕30周年などイベントが重なっていたため。また、大雨の災害対応にあたったため。

まなびタウン地下駐車場

問 地下駐車場が使用不能になった際、復旧が遅かった。どんな指示を出していたのか。

答 噴出した泡消火器に使用されている消火材の成分が使用禁止になっていた。このため、消火設備の復旧について、消防署等関係機関と協議しながら手続きを踏んだので時間がかかった。



自伐型林業の推進を (自ら経営管理、施業を行う小規模の林業)



地域の状況（森林所有者、地形、林産材需要）や人材育成環境によっては取り組みが難しい
福本町長



手嶋 正巳 議員

質疑応答時間（ 14回 26分 + 20分 ） 46分

自伐型林業



若い世代を中心に関心や 参入意欲が高まっているが

- ①多様な担い手を掘り起こす必要があると思うが。
- ②林業で生計を立てている方が琴浦町に何人おられるか。
- ③2019年度から森林環境譲与税が都道府県と市町村に配分。本年度から1人当たり年額1,000円の森林環境税に。この流れはご存知か。
- ④京都府福知山市「自伐型林業ステップアップ研修」、高知県佐川町「地域再生の柱として進めていることで知られている」森林の集約化、地域おこし協力隊の活躍。こういう事例をどう思われるのか。
- ⑤課題として、森林行政に精通した担当者がいない、森林管理を担う能力が十分でない、専門知識の習得や人材育成のためには教育研修機関との連携、国都道府県による職員の派遣などの支援、経済林と非経済林とを適切に分ける森林ゾーニング、これらの課題をどう思われるのか。



- ①町の意向調査の結果は、「森林組合に管理をお願いしたい」が大半であった。募集をかけても現状では難しい。
- ②町全体の数字は把握していない。
- ③切り替わった時点、法的なものとして承知している。森を守る、山を守るという機運の盛り上がりが課題。
- ④町の現状を踏まえた場合、協力隊を入れるなら指導なり、徹底したフォロー体制がないと人材確保以前に人材を失う恐れがある。

- ⑤町の森林の大部分は中部森林組合を中心に動いていただいていると思っている。今後も森林組合中心でないと難しいと思っている。

コーポラスことうら



現状と今後は

- ①管理の現状は。
- ②毎年積立金として積んであるが、現在の積立金はいくらなのか。
- ③今後、耐用年数のこともあるがどのようにしていかれるのか。



- ①現在80戸、現在入居できているところが71戸、入居率は89%。耐用年数は70年で令和32年まで。
- ②令和5年実績で約1億9,400万円。
- ③海岸部に近いこともあり、腐食等進んでいる。平成20年の調査でアスベストが含まれていないことを確認している。改築するのか、解体するのか早めに対応していきたい。解体した場合、80戸の入居されている方の対応も考えながら慎重に計画したい。



コーポラスことうら



桑本 始 議員



- 1 「増える身寄りなき高齢者」の身元保証、「無縁遺体」指針整備は
- 2 犯罪被害者等（児童・生徒）への教育支援は



- 1 全国的な課題であり、国の動向を注視し対応
福本町長
- 2 国・県で検討されているので注視し対応
福本町長
支援会議等でニーズを聞き対応
河原教育長

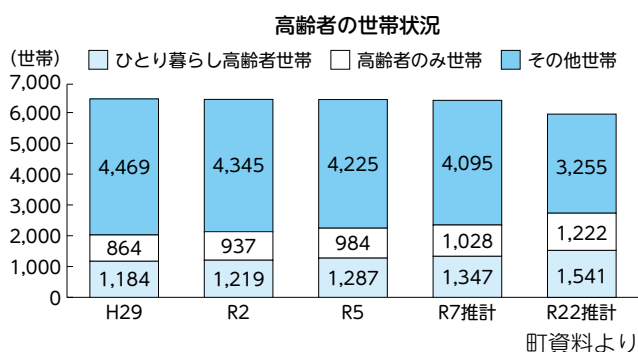
質疑応答時間（ 9回 (質問) 25分 + (答弁) 26分 (トータル) 51分

増える身寄りなき高齢者

問 日常、行政手続き…誰が支援するのか

(1) R5.9月時点で、町のひとり暮らしの高齢者帯1,287世帯と高齢者のみ世帯984世帯の合計2,271世帯が全世帯の35%にあたる。

R22には推計で、ひとり暮らし高齢者世帯が下表のとおりで、自治体は対応に迫られているが。



(2) 「身寄りのない高齢者」の老後の施設入所や入院時に求められる身元保証のほか無縁遺体等の取り扱いに関する自治体マニュアルは整備されているのか。

答 町・社協・施設等が役割分担しチームで支える態勢が必要 福本町長

(1) 各種制度が、身寄りがあることを前提に制度設計されている。身元保証等の対応については、介護保険制度等の公的サービスに位置付けられていない。全国的な課題であるため国の動向を注視し、情勢に応じた対策を今後検討する。

(2) マニュアルは整備していない。国の動向を注視し、今後整備を検討する。

犯罪被害者等への教育支援は

問 日常生活支援の中で教育支援を助成しては

児童・生徒が犯罪被害者等となってしまった場合の支援について、当該児童・生徒やその家族への支援はもとより、当該児童・生徒が通う学校との連携は大変重要である。従って、当該児童・生徒に関わる関係機関との協議を十分に重ね、個々の児童・生徒に即した必要な支援施策を検討しては。

(例) 川崎市の教育支援

(令和元年5月同市で起きた川崎市通り魔事件) 教育支援の助成制度は「犯罪被害により子を通学させることが困難となった犯罪被害者等が教育サービスを利用した場合に費用を助成できる。額は48,000円が上限。使い道は家庭教師サービスを利用した場合に費用を助成できる。

答 国・県の支援策を活用しながら対応したい 福本町長

現在、国や県（犯罪被害者に寄り添う支援のあり方検討会）で児童・生徒への支援が検討されており、それらの制度を活用しながら支援を行っていく。

答 支援会議等でニーズを聞き寄り添った対応を行う 河原教育長

支援会議等により児童・生徒、家庭の不安感や支援ニーズを聞き取り、それに寄り添った対応を行っていく。



**県内の暴力行為、不登校が過去最多
町内の小・中学校の実態は**



本町においても、不登校、暴力行為は増加傾向

河原教育長



小椋 正和 議員

質疑応答時間 (21回 (質問) 23分 + (答弁) 29分) 52分 (トータル)

小・中学校の諸問題対策



町内の小・中学校の実態は

町内小学校、中学校の暴力行為、不登校等の実態はどうなのか。以前からこの問題は重要な案件として対応されてきた経緯もあるが減少しているのか。



不登校、問題行動とも増加傾向

要因は一つに特定されるものではなく、様々な要因が複雑に絡み合っている。コロナ渦の影響もあり、人間関係づくりにおける体験不足の部分もある。また小さなことでも見逃さずに問題行動としてカウントしている点も数値が増加している一因として捉えている。



学校間において違いはないのか

各学校において、これらの問題が多く起こりやすい環境とか、学校間において違いはないか。



学校間に違いはない

学校間に違いはなく、どこの学校においても起こり得るというふうに考えている。

教師は教育を左右するものであるが、そのさまざまな教員がそれぞれの味を出して、いいところを活かしながら対応していく事が望ましい。



家庭環境も重要その対応は

これまでの対応ではスクールソーシャルワーカーが児童相談所等と対処していくと聞いているが、それ以外の対策も必要と考える。



組織対応の重要性がある

組織対応の重要性が改めてクローズアップされている。児童相談所、町の福祉あんしん課医療機関とも連携して、管理職を中心とした教職員、スクールソーシャルワーカー等も加えて定期的に、必要に応じて協議を行い、PDCAサイクルで支援。



楽しく、笑顔で通学できる環境は

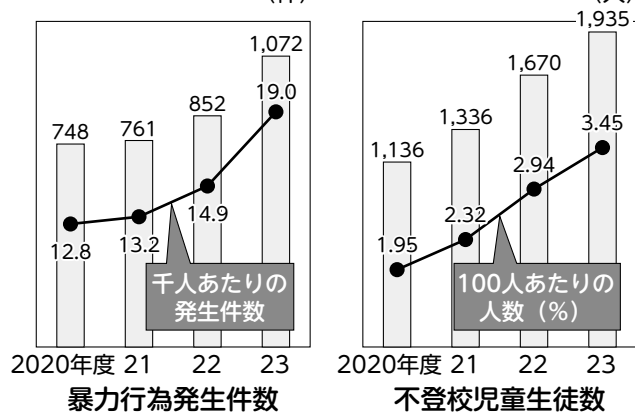
児童、生徒全員が楽しく、笑顔で通学できる環境はだれが作っていくのか。諸問題が減少する、無くなる対策は実現できるのか。



学校は失敗するところでもある

学校はうれしい事、楽しい事を積み重ねるだけでなく、失敗するところでもある。失敗や課題を通して自らを振り返り、そこから学んだことをその後はどう生かしていくかが大事である。失敗や困難を乗り越えるたくましさを育成していく事が目指すところで、特効薬はないが関係者で連携して支援を行っていく。

鳥取県内学校の暴力行為と不登校の調査結果



日本海新聞 R6年11月1日掲載記事より作成

町民の声

敬称略

「上郷・倉坂たすけあい交通」のドライバーになって

私がそれを知ったのは、町報の7月号を読んでいたら令和7年4月から町営バス福永線の運行の見直しが予定されていて、8月・9月にたすけあい交通の実証実験を行うということでした。

その中にドライバーの氏名と居住地が記されていて上郷地区の方だけでした。

倉坂からは誰もいないんだと何か寂然としないものを感じていました。後日「たすけあい交通」の事務局の方から、下郷公民館からの紹介がありドライバーになっていただけませんかと打診がありました。

事務局の方に自宅に訪問していただき詳細について説明を受け、ドライバー登録をしました。今回は実験なので自動車学校での指定講習を受けないで参加できますが、すでにドライバー登録されていた方は米子自動車学校で講習を受けられるとのことでした。私も実施前には講習を受ける必要があるということでした。

さて、いよいよ8月に入り実験がスタートしました。月・水・金の午前と午後に分けて無料で運行されることとなり、原則前日までの予約で浦安駅周辺の範囲の送迎ということでした。

私は、期間中5回乗務させていただきました。知り合いの方や初対面の方の送迎を行い、送迎先も駅、スーパー、レストランと多様でした。さすがに毎回緊張しましたが、和やかに送迎できたと思っています。

実験期間が終わりアンケートを実施し、「便利でした」「早く実施していただきたい」というご意見をいただきました。期間中18日運行し、平均利用者は1日7.2名という結果になりました。

結びになりますが、指定講習を無事に終了し、4月からの本実施を心待ちにしています。



まつもと まさふみ
松本 雅文

熟柿のつぶやき

我が家のベランダ側は谷で田んぼが見えます。

向こうの山際から登る朝日を眺めながらお茶をいただく至福の時。前が海、背に山と神戸によく似た山紫水明の地、琴浦に移住して早14年。生活するのに一番大事なことは環境だと思う。まず水と空気がきれい、新鮮な食材がある。この環境からして人々のおだやかな生活。そんな中での人々との繋がりから生まれる趣味の世界。そして一番望んでいた事は自分で野菜を作って食べること。形は悪くてもその味は格別です。赤くなってから食べるトマトの味、自然の味を味わえる瞬間です。

アウトドア派の私達にとっては散策するのに緑豊かな自然が身近にあることが嬉しい。大山は体力測定会場として歩きます。無理をせず歩ける所まで歩き大概4合目か6合目で引き返します。出会った人と年齢、コース、登山歴など話しながらこちらも元気をもらいます。山に咲く花を見、鳥の声を聴きながら緑の中を歩く、本当に自然に癒されます。「たのしみは 意にかなう山水の あたりしずかに 見てあるとき」そんな気分になる所です。来年の目標は立山室堂平周辺を歩くことです。目標をもって生活を楽しみましょう。



しげた あつこ
繁田アツ子



あしがき

令和6年は、当初予算の多くが次年度への繰り越し、新たな補正予算の提案など、工事材料費の未調達や単価の高騰。そして人手不足などによる工期の遅れなど要因は様々あれど事業を行ううえで順調とは言えない年でした。

このような環境の中ではありますが令和7年は、自然災害への対応遅れなどで生命の危険が無いよう、町民が安心して暮らしていける年になることを願っています。
(憲)



議会広報常任委員会

委員長	谷田 順子
副委員長	川本 善孝
委員	山本 秀正
委員	田中 肇
委員	小椋 憲浩
委員	金光 敦

題 字 山田 美鈴氏